

「2008年度 第3回 番組審議会 議事録」

I. 開催概要

1. 日時場所：

2008年11月25日（火） 14：15～16：00

@キッズステーション 第2・3会議室

2. 審議委員：

阿部敬悦（株式会社講談社 第六編集局局長）

浮田周男（株式会社ジェー・プラネット エグゼクティブ プロデューサー）

斎藤汎司（株式会社トムス・エンタテインメント スーパーバイザー）

副島恒次（舞台・TV演出家：バウ・スプリット（株） スーパーバイザー）

高芝利仁（弁護士：高芝法律事務所）

田口成光（脚本家・放送作家）

宮下友美恵（学校法人静岡豊田学園 静岡豊田幼稚園 園長）

計7名

3. 事業者：

内田康幸（代表取締役社長）

貞松慎太郎（業務推進本部長）

因真一郎（放送本部長）

沼生祐介（編成部長）

押田聖弘（P）

山本晋（P）

飯野博之（経営企画室長）

石田千佳子（広報室長）

青木恒子（広報室）

計9名

II. 議事内容

1. 社長挨拶

当社の近況につき、以下報告を行った。

直近加入世帯数報告

放送に関わる、カスタマー、関係会社からの問題提起対応について報告

2. 番組審議

司会進行：宮下友美恵委員長

i 対象番組：『環境超人エコガンダー』

『環境超人エコガンダー』について、事業者側より企画説明を行った後、委員の番組に対する意見も交え審議を行った。

(企画説明) 山本プロデューサー (キッズステーション)

(配布した資料に沿って説明)「環境超人エコガンダー」は、子どもの未来を応援しようというベースに沿って、地球環境という難しいテーマにチャレンジした。地球の未来と一緒に考えようという番組コンセプトを軸に、番組を補完する意味で、スタートと同時にWebを立ち上げた。

なぜエコなのか、また具体的な行動をとることによってどんな効果があるのかなど、主に親がこのページで情報を得、TVを見た子どもたちと、より深くエコについての会話や説明ができるように配慮した。

アクセス数もお蔭様で好調

。

<審議委員意見>

身近なところからという話があったが、あまりそこばかりに注力すると、スケールが小さく感じる。

敵のキャラクターを綺麗な空気でやっつける場面があるが、空気が綺麗になる様子がヴィジュアル的に分かりにくい。

身近なところから始める、といった着眼点は良いのだが、その先、例えば水を節約した結果、どうなるのというものが盛り込まれているとなお良い。

絶対正義を描く場合、ユーモアの要素も必要なのではないか。説教くさい、非の打ち所がない、そういうものは、却って何も残らない。悪の側にも一工夫しないと、平面的というか、キレイごとというか、変身ものとしても型どおりのことをやっていると感じる。

ヒーローが仮面を被っていて人間的じゃない。一方、悪のキャラクターは顔が出ているので人間的に見えた。悪の側に共感が集まってはまずいのでは？

主題歌はとても良い。

<事業者側回答>

身近なテーマを軸に展開しているため、大きな視点からエコを捉えるのには、番組だけでは無理があり、ご指摘の通りだと思う。そこを補完する意味でも、WEBサイトで親が情報を得て、説明することを想定している。WEBでの説明で「なぜ？」に答えている。

エコガンダーは未来の世界で作られ、現代にタイムスリップしてきたという設定になっ

ている。

この部分は、番組内ではナレーションで説明するかたちとなった。

1話完結ながら、全体のリズムをつける意味で、第6話以降に何でムダーナ、ハカイスが悪者なのか、感情移入できる場面を作るようにした。

ii 対象番組：『ハッピー！クラッピー』10月からのリニューアル作品『ハッピー！クラッピー』について、事業者側より企画説明を行った後、委員の番組に対する意見も交え審議を行った。

(企画説明) 押田プロデューサー (キッズステーション)

(配布した資料に沿って説明) 9月1日より、ハッピー！クラッピーの世界観、パーソナリティを一新しスタートをきった。

08年4月より、編成強化策として9時台、14時台に『アンパンマンOVA』と『ハッピー！クラッピー』の帯放送を開始してきたが、この9月に『ハッピー！クラッピー』のリニューアルを行った結果、視聴者からの投稿や反響が高まっている。

パーソナリティはタレントの新山千春。お母さん方と同じ目線で語りかけ、番組を進行していく。子どもたちの化身であるキャラクターは森の妖精ラッピー。先生的な位置づけで取り組み、テーマに安心感を与える存在として、ハピクラ山に住むなんじゃ仙人を配した。ハピクラタウン、ハピクラ動物園、ハピクラの海、ハピクラの音楽劇場など、子どもたちがワクワク・ドキドキする楽しい場所「ハピクラ・ワールド」を舞台に展開をしている。スタジオの設定は「ハピクラの森」で、この森には子どもたちが興味を持つ「実」のなる不思議の木があり、毎回、子どもたちの化身であるラッピーが、この実を選んで、物語が展開する。

<審議委員意見>

チハルーの靴がハイヒールなのが気になる。もっと動きやすい靴のほうが良い。

なんじゃ仙人のズッコケキャラを前面に出したほうが、良いのではないかな。

全体的にパワーアップした印象を受けた。

動物のコーナー(実写)で、「オリ」が映っているのが気になった。オリの中に飼われている画ではなく、サファリパークなどで撮ってほしかった。

動物の名前を言う時に、「さん」づけをしているが、おかしいと思う。

各コーナーで扱う題材は、よりバラエティがあったほうが楽しいのではないかな。

チハルーの声が心地よいと感じた。子どももそう感じるのではないかな。

まねジムナのコーナー、出演している子どもに対する声かけで、上手にできる子どもできない子にも、それぞれのペースにあった言葉かけを考えてほしい。

コーナーから、コーナーへの移動に唐突感を覚えた。次は「〇〇のコーナー」など、コー

ナーを繋ぐ役割をチハルーがもっと前面に出て行った方が、自然に進むのではないか。  
全体的に、チハルーの露出を増やしていったほうが、良いと思う。

<事業者側回答>

チハルーの靴については、次回以降見直しをおこなっている。

1才～3才を対象としているため、動物については「さん」づけで統一しているが、言葉の  
選び方、使い方は試行錯誤している状態で、適宜見直しを行っていきたい。

チハルー役の新山さん含め、スタッフ全員で、今後も視聴者の皆さんに支持される番組に  
なるよう、一丸となって取り組んでいきたい。

ー以上をもって本日の番組審議会の議事全てを終了した。

次回は、2009年2月17日（火）14：15～キッズステーション会議室にて開催予定。